

朝霞市の プロフィール

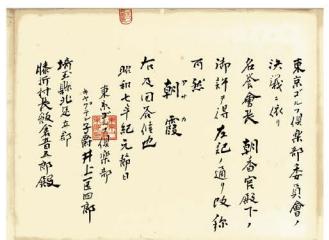
Profile of Asaka City



朝霞市の名の由来

昭和5年、東京府世田谷区駒沢にあった「東京ゴルフ俱楽部」のゴルフ場が膝折村に移転することになりました。このことがきっかけとなり、村名を改称し、同時に町制を施行しようという機運が高まり、移転と時を同じくした昭和7年5月1日に朝霞町が誕生しました。改称にあたっては、当時、東京ゴルフ俱楽部の名誉会長であった朝香宮鳩彦王の名をいただき、「朝霞」とすることになりました。

市では、東京ゴルフ俱楽部から発せられた町名改称許可書を市の文化財に指定し、大切に保管しています。



▲町名改称許可書

朝霞市の位置／人口など



朝霞市は、都心から20km圏内で、武蔵野台地の東に位置し、埼玉県の南部に当たります。南は東京都練馬区、北は志木市、東は和光市、西は新座市、さらには荒川を隔ててさいたま市、戸田市と隣接しています。

市域は南北約6.3km、東西約4.6km、面積は18.34km²で、市内には荒川、新河岸川、黒目川、越戸川の4つの河川が流れています。

かつての米軍基地跡地には、小・中・高等学校をはじめ、陸上競技場、体育館、図書館、公園など各種の公共施設が整備され、市民のスポーツ、文化活動、さらには憩いの場として利用されています。

市 章



昭和42年3月15日制定。「アサカ」の3文字を合体させて、飛鳥の姿に图案化したもの。市の和と団結を表し、将来の飛躍的な発展を象徴しています。

市の木 ケヤキ



市の花とともに、昭和53(1978)年10月に市制施行10周年を記念して制定。関東地方の代表的な木で、多くは並木、屋敷林の木として利用されています。落葉の高木で力強い感じがする、丈夫な木です。

市の花 ツツジ



花色は多種で開花期は4~6月です。繁殖が容易で花だんや盆栽として多く親しまれています。サツキも含まれます。

市のブランドタグライン・キャラクター紹介

市のブランドタグライン

むさし フロント あさか
(ロゴタイプ)

ブランドタグライン

都市部へのアクセスが良いのに、武蔵野のみずみずしい風景や自然環境が保たれているまちである朝霞市を表現しています。

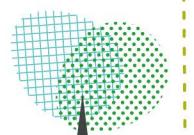
通勤通学、ショッピング、文化体験などへの利便性と自然環境がバランス良く調和した現在の朝霞市の暮らし心地を維持し、市民参加型の活動を通じて、より高めていくことを目指すメッセージです。

ロゴマークをご利用ください!

むさしのフロントあさかのロゴマーク(ロゴタイプ・シンボルマーク)は、朝霞市の魅力を広く市内外にPRするために作られたものです。チラシやパンフレットなど、事業者の方のご利用も可能です。詳細は市ホームページをご覧ください。



（シンボルマーク）
のびねこ



（シンボルマーク）
ケヤキ

市のキャラクター



ぼばたん

武蔵野の地に咲くタンポポの妖精をイメージしており、頭のフワフワした飾りは、タンポポの綿毛を表現しています。

ぼばたんは黒目川のお日さまがいちばん当たる場所が大好き！特技はみんなのところへふんわり移動し、そっと気持ちに寄り添ってホッとさせることです。市内の色々なところをふんわり移動して、朝霞の魅力を伝えていきます♪

▶シティ・プロモーション課 TEL 423-3241



朝霞市的主要年表（町制施行～現在まで）

昭和 7 (1932)年	膝折村が町制施行、「朝霞町」発足 朝霞町庁舎建設(現保健センター敷地内)
昭和 26 (1951)年	朝霞町公民館設置
昭和 30 (1955)年	朝霞町と内間木村が合併、新「朝霞町」発足
昭和 39 (1964)年	救急車を購入し救急業務を開始 東京オリンピック大会射撃競技を朝霞で開催
昭和 40 (1965)年	小学校の学校給食開始
昭和 41 (1966)年	ごみ焼却場完成
昭和 42 (1967)年	市制施行、市章制定 朝霞市消防本部、消防署発足 埼玉国体ライフル競技を朝霞射撃場で開催
昭和 43 (1968)年	中学校の学校給食開始
昭和 44 (1969)年	朝霞市歌・朝霞音頭の発表会開催
昭和 46 (1971)年	泉永浄水場が一部完成し、送水を開始
昭和 47 (1972)年	市役所が現在地に完成し、業務を開始
昭和 48 (1973)年	国鉄(現JR)武藏野線開通(北朝霞駅開設)
昭和 49 (1974)年	東武東上線朝霞台駅開設
昭和 50 (1975)年	北朝霞土地区画整理事業完了
昭和 51 (1976)年	市民会館開館
昭和 54 (1979)年	保健センター開設
昭和 56 (1981)年	城山公園開園
昭和 57 (1982)年	総合体育館、朝霞中央公園完成 公共下水道の一部を供用開始
昭和 58 (1983)年	青葉台公園開園
昭和 59 (1984)年	中央公民館・コミュニティセンター開館 第1回朝霞市民まつり開催
昭和 62 (1987)年	滝の根公園開園 東武東上線・地下鉄有楽町線相互乗り入れ開始 朝霞市立図書館開館
昭和 63 (1988)年	溝沼子どもプール開設
平成 2 (1990)年	朝霞台出張所開設



昭和初期の膝折駅



朝霞市市制施行時朝霞駅前(昭和42(1967)年)



旧庁舎(昭和43(1968)年頃)



市役所屋上から朝霞駅方面(昭和54(1979)年頃)



第1回朝霞市民まつり開催(昭和59(1984)年)



東武東上線・地下鉄有楽町線相互乗入開始(昭和62(1987)年)

平成 6 (1994)年	健康増進センター「わくわくどーむ」開設 市内循環バスの運行開始
平成 7 (1995)年	朝霞水門が完成
平成 9 (1997)年	朝霞市博物館開館 朝霞市斎場開設
平成 10 (1998)年	朝霞地区一部事務組合埼玉県南西部消防本部発足
平成 11 (1999)年	産業文化センター開設 朝霞市立図書館北朝霞分館開館
平成 12 (2000)年	総合福祉センター「はあとぴあ」開設 朝霞市リサイクルプラザ「エコネットあさか」開設
平成 13 (2001)年	旧高橋家住宅が重要文化財に指定される
平成 15 (2003)年	朝霞市・志木市・和光市・新座市の合併の是非を問う住民投票実施
平成 16 (2004)年	埼玉国体軟式野球競技を朝霞中央公園野球場で開催
平成 19 (2007)年	朝霞駅前出張所、市民活動支援ステーション開設 朝霞駅南口広場完成
平成 20 (2008)年	朝霞駅東口広場完成(北口から名称変更) 東武東上線・地下鉄副都心線相互乗り入れ開始 重要文化財旧高橋家住宅の一一般公開開始 埼玉県から「地域子育て応援タウン」に認定
平成 21 (2009)年	プラスチック類処理施設完成
平成 22 (2010)年	朝霞第四、第五小学校で自校式給食開始 一般国道254号線和光富士見バイパス(第1期整備区間)開通
平成 23 (2011)年	東日本大震災で震度5弱を記録 岐阜県瑞浪市と「災害における相互応援に関する協定」を締結 長野県佐久市と「災害における相互応援に関する協定」を締結
平成 24 (2012)年	山形県東根市と「災害相互援助協定」を締結 朝霞市指定天然記念物「湧水代官水」の公開 基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」オープン
平成 25 (2013)年	それいゆぷらざ(女性センター)を開設
平成 27 (2015)年	福島県須賀川市と「災害時相互応援協定」を締結
平成 29 (2017)年	越生町と相互交流に係る覚書を取り交わす
令和元 (2019)年	ほんちょう児童館開所
令和 2 (2020)年	シンボルロード供用開始 観音通線全線開通



北割公園の桜



黒目川花まつり

市の桜の名所であり、人々の憩いの場所でもある黒目川周辺で、さまざまなイベントが開催される春のお祭りです。



朝霞市民まつり「彩夏祭」

朝霞市を代表するイベントといえば、「彩夏祭」。よさこい鳴子踊りや打ち上げ花火のほか、各種イベントが盛りだくさんです！



黒目川を満喫するカモの親子



滝の根公園の新緑とつり橋



福島県須賀川市から寄贈された牡丹(青葉台公園)



市内小学校入学式



溝沼子どもプール



旧高橋家住宅の七夕



ジャズのタベ



朝霞市民まつり「彩夏祭」

朝霞市を代表するイベントといえば、「彩夏祭」。よさこい鳴子踊りや打ち上げ花火のほか、各種イベントが盛りだくさんです！



旧高橋家住宅のアジサイ



青葉台公園の噴水



朝霞アートマルシェ

秋の一大イベントといえば、朝霞駅周辺で行われる「アートマルシェ」。絵を描いたり、音楽を楽しんだり、おいしいものを食べたり…etc. アートの魅力がたっぷり詰まった魅力的なイベントです。



北朝霞どんぶり王選手権

市内外の飲食店などが、アイデア自慢の「どんぶり」を持ち寄り販売します。来場者の投票により「どんぶり王」を決定します。



ロードレース大会



島の上公園



あさか産業フェア



北朝霞駅前イルミネーション



市民体育祭



農業祭



朝霞の森秋まつり



消防出初式



旧高橋家住宅のおひなさま